２０１２年度

新入社員の会社生活調査

全体総括

貢献意識の強い“リアリスト”

注目データ

・女性新入社員「将来は管理職」　急上昇し過去最高

・早く戦力になって会社に貢献したい　６割弱

・目指す地位　「部長クラス」が初の２割超

・定年なしでいつまでも働く　低下が続く

・ＳＮＳを毎日利用　６割弱、就職活動での活用は２割

２０１２年6月

学校法人 産業能率大学

調査期間：３月２８日～４月１１日
調査対象：本学の新入社員研修参加者のうち５５０人
有効回答：５１４
調査開始：１９９０年（毎年実施）

お問い合わせ先
企画広報部企画広報課　秋山
電話：03-3704-9040
ﾌｧｸｽ：03-3704-9404
〒158-8630　東京都世田谷区等々力 6-39-15

学校法人産業能率大学（本部：東京都世田谷区／理事長：上野俊一）は、新入社員の働く意欲や新社会人としての意識、将来の目標などに関するアンケートを実施し「２０１２年度 新入社員の会社生活調査」としてまとめました。

この調査は、3月２８日から４月１１日まで、本学の産能マネジメントスクールが開催する「新入社員研修セミナー」の参加企業の新入社員のうち１５０社５５０人を対象に実施し、５１４人（男性３５６人・女性１５８人）から有効回答を得ました。本学では１９９０年度から、この調査を「新入社員の会社生活調査」として継続して実施しています。

全体総括

会社への貢献意識が強い傾向。仕事に対しては、夢を持つよりも現実的な考え方を抱いている様子。女性新入社員では管理職志向の強まりが目立つ。

今年度の新入社員調査では、就職活動の結果について「たいへん満足」が過去最高（Ｐ．１３）に。こうした強い満足感からか、早く戦力になって会社に貢献したいという意識があり（Ｐ．１７）、将来は管理職として指揮を執ることを望む割合が前年同率で過去最高でした（Ｐ．１９）。組織に貢献しようとする意欲が強い新入社員の意識をうかがうことができる一方、目指す地位は「部長クラス」が初めて２割を超え（Ｐ．２１）ています。定年なしでいつまでも働く、という意識も過去最低に落ち込んでおり（Ｐ．２３）、仕事や働くことに対して現実的な捉え方をしている印象もあります。

また、女性新入社員の管理職志向が３割に近づき過去最高（Ｐ．１９）。日本企業における女性管理職の登用率が少しずつ上昇する傾向にありますが、女性新入社員のキャリア形成においても「管理職」が意識されるようになってきています。

目　次

● 注目データ・・・Ｐ．２～Ｐ．３

● 調 査 概 要・・・Ｐ．４

● 調 査 結 果・・・Ｐ．５～Ｐ．１０

● デ ー タ 集・・・Ｐ．１１～Ｐ．２４

注目データ

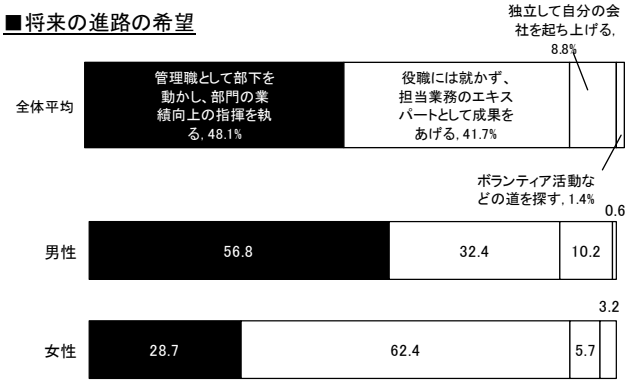
●将来は管理職　過去最高（前年同率）
女性新入社員の管理職志向　３割に近づく

将来の進路を尋ねたところ、“管理職志向”（管理職として部下を動かし、部門の業績向上の指揮を執る）が４８.１％で、前年度と同率で過去最高でした。“専門職志向”（役職には就かず、担当業務のエキスパートとして成果をあげる）は４１.７％で、依然として４割を超えていますが過去最低の割合です。

男女別にみると、男性新入社員は管理職志向が５６.８％で、過去最高だった前年から０.１ポイント減少したものの高止まり。

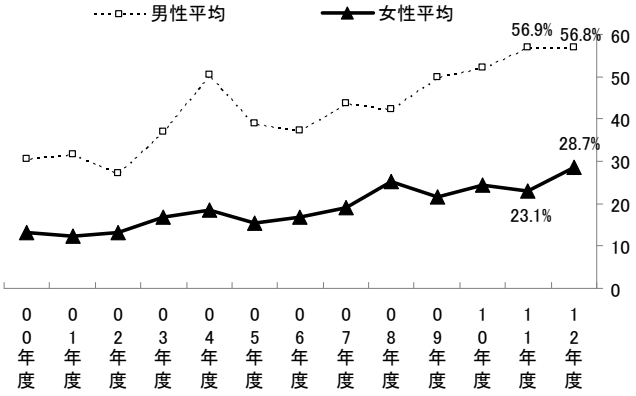
女性新入社員は、“専門職志向”が依然として６割を超えている一方、“管理職志向”が３割弱に達して過去最高です。日本では諸外国に比べると女性の管理職登用が遅れていますが、少しずつ増加してきています。女性新入社員にとっても、自身のキャリアの見通しにおいて管理職を志向する人が増えてきているようです。

■将来の進路の希望



■“管理職志向”の推移（詳細はＰ．１９）

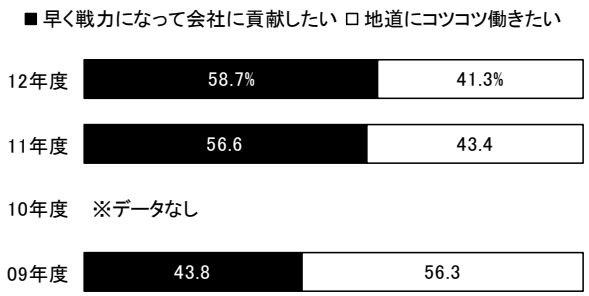
男女ともに管理職志向が強まる傾向。女性の管理職志向は過去最高で３割弱に達する。



●早く戦力になって貢献したい

働き始めるにあたって、「早く戦力になって会社に貢献したい」と思うか、「地道にコツコツ働きたい」と思うかを二者択一で尋ねたところ、**「早く戦力になって会社に貢献したい」が５８.７％でおよそ６割**を占めました。これは０９年度と１１年度にも尋ねており、この中では最高に達しています。

■働きはじめるうえでの“意気込み”

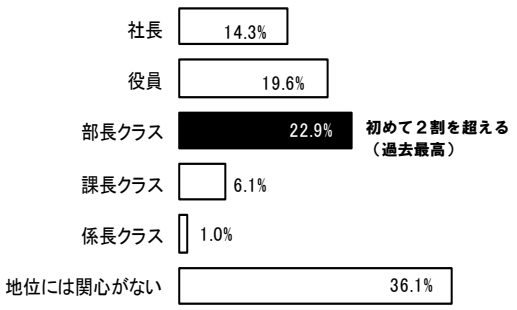


●最終目標「部長クラス」初の２割超

最終的に目標とする役職・地位を尋ねたところ、「地位には関心がない」を除くと、**「部長クラス」が一番高く２２．９％で、初めて２割を超えました。**

「部長」が昨年から３．８ポイント増加した一方、「社長」「役員」は前年からそれぞれ３．１ポイント減少しています。

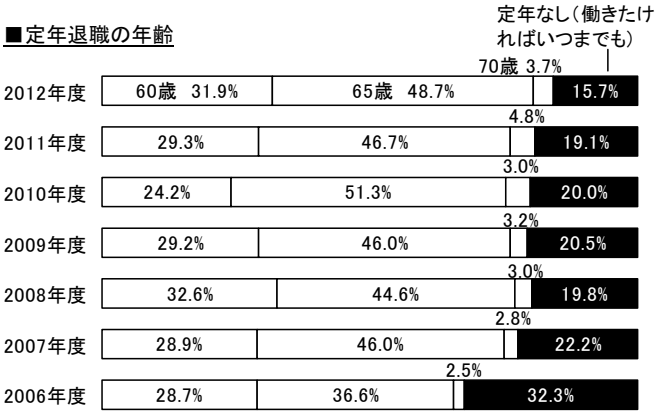
■最終的に目標とする地位



●定年なしでいつまでも働く　過去最低

定年退職に適した年齢を尋ねた結果、もっとも多いのは「６５歳」で４８．７％でした。「６０歳」と「６５歳」をあわせた“６５歳以下”の割合は８０．６％と過去最高に達し、一方で**「定年なし（働きたければいつまでも）」は１５．７％で過去最低**でした。

■定年退職の年齢

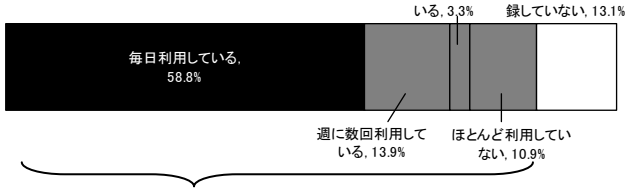


●ＳＮＳ　毎日利用は約６割、ソー活は約２割

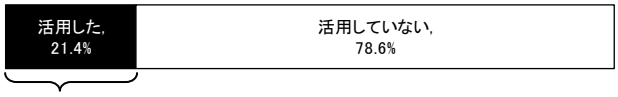
ｍｉｘｉ、フェイスブック、ツイッターなどのソーシャル・ネットワーキング・サービス（ＳＮＳ）**の利用状況について尋ねたところ、「毎日利用している」のは５８．８％と６割弱**に達しています。

ＳＮＳに利用者登録している人に対して、就職活動でＳＮＳを活用したかと尋ねたところ、「活用した」のは２１．４％でした。

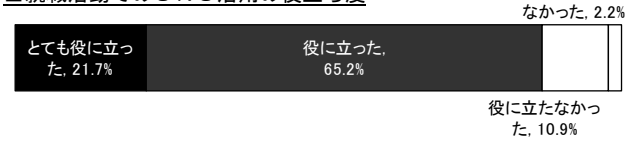
■ＳＮＳの利用状況



■就職活動でのＳＮＳ活用の有無



■就職活動でのＳＮＳ活用の役立ち度



調査概要

１．　調査対象　　産能マネジメントスクールの新入社員研修セミナー参加者のうち
　　１５０社５５０人

２．　調査時期　　２０１２年3月２８日～4月１１日

３．　調査方法　　書面アンケートによる回答肢選択方式

４．　有効回答　　５１４人
　　男性３５６人（６９.３％）　／　女性１５８人（３０.７％）

５．　所属企業プロフィール

（従業員数）	１００人未満	１１２人	（　２１.８％）
	１００人以上 ５００人未満	３１１人	（　６０.５％）
	５００人以上 1,０００人未満	６６人	（　１２.８％）
	1,０００人以上	２５人	（　４.９％）
		５１４人	（１００.０％）
（上場区分）	上場企業	１９４人	（　３７.７％）
	非上場企業	２６２人	（　５１.０％）
	企業以外の法人	５８人	（　１１.３％）
		５１４人	（１００.０％）
（企業所在地）	北海道	０人	（　０.０％）
	東北	６人	（　１.２％）
	関東	４２５人	（　８２.７％）
	中部	１６人	（　３.１％）
	近畿	６２人	（　１２.１％）
	中国	４人	（　０.８％）
	四国	０人	（　０.０％）
	九州	１人	（　０.２％）
		５１４人	（１００.０％）

お問い合わせ先

（学）産業能率大学企画広報部企画広報課

電 話：03-3704-9040 ／ ﾌｧｯｸｽ：03-3704-9404
〒158-8630　東京都世田谷区等々力 6-39-15

２０１２年度　新入社員の会社生活調査

調　査　結　果

就職活動の結果

就職活動の“大変さ”の実感がやや緩和
就職活動の結果　「たいへん満足」が過去最高

先ごろ、厚生労働省及び文部科学省が発表した大卒者の就職内定率は９３.６％でした。これは過去最低だった昨年度から２.６ポイントアップしていますが、本調査で尋ねた就職活動の感想からも、厳しさがいくらか薄れた就職環境をうかがうことができます。

今年度の就職活動を振り返って（Ｐ.１２／問１）もらったところ、「かなり大変だった」が２６.０％で、昨年度から９.４ポイント減少しました。厳しさが緩和している様子を窺うことができます。

『就職活動の結果』（Ｐ.１３／問２）については、「たいへん満足」が５３.１％で過去最高です。「やや満足」が３９.３％で、合わせて９２.４％が“満足”と回答しています。

『就職先を選ぶ際に重視した項目』（Ｐ.１４／問３）については、「仕事内容」がもっとも高く７０.８％、「業種」（６４.３％）がこれに次いでいます。

男女別にみると、「企業風土」については、女性の４８.７％に対して男性は３３.５％と、およそ１５㌽程度差があります。一方、「企業規模」は男性の１８.３％に対して女性は５.１％にとどまり、およそ１３㌽差がありました。

ＩＴ利用

スマートフォンを所有　７２％
ＳＮＳを毎日利用　６割
ＳＮＳの就職活動での活用は２割にとどまるものの、活用者の大半が「役に立つ」

『所有している情報機器（複数回答)』（Ｐ.１５／問４）について尋ねると、ここ数年急速に普及している「スマートフォン」の所有が７２.２％で、１位の「ノートパソコン」（７３.５％）に迫ります。またスマートフォン以外の「携帯電話」は４１.６％が所有しています。このほか「デクトップパソコン」が２８.８％、「タブレット端末」が７.６％、これらのいずれも「持っていない」のは０.２％に留まります。

『ソーシャル・ネットワーキング・サービス（ＳＮＳ)』（Ｐ.１５／問５）の利用状況は、「毎日利用している」が５８.８％で、約６割に達しています。男女別でみると女性が７０.９％、男性が５３.４％となっており、女性の割合が高い結果でした。

ＳＮＳに利用者登録している人に対して、就職活動でＳＮＳを活用したかを尋ねた結果では（Ｐ.１６／問６)、「活用した」は２１.４％にとどまっています。男性（１９.０％）と女性（２６.４％）で７.４ﾎﾟｲﾝﾄの開きがあります。
就職活動でＳＮＳを活用したと回答した人に対して、『どのように活用したか（複数回答)』（Ｐ.１６／問７）を尋ねた結果では、「友人との就職活動に関する情報交換」が最も高く５８.１％。これに、「個別企業の採用活動の情報収集」（５５.９％)、「就職フェア等の開催情報収集」（４０.９％）で続いています。また、「社員の書き込み等から社風を把握」するといった活用法も３人に１人の３３.３％が実践しています。

就職活動でのＳＮＳ活用は、まだ５人に１人強と発展途上のようですが、実際に活用した人に『就職活動でＳＮＳは役に立ったか』（Ｐ.１６／問８）を尋ねた結果では、「とても役に立った」（２１.７％)、「役に立った」（６５.２％）を合わせると約８７％が“役に立った”と評価しています。

自身の将来展望

「早く戦力になって会社に貢献したい」約６割
女性の“管理職志向”の強まりが目立つ
最終的な目標は「部長クラス」が初の２割超

これから社会人として働くうえでの意気込みや､将来のキャリアプランなどについて尋ねました。

『これらから働く上での意気込み』（Ｐ.１７／問９）について、「早く戦力になって会社に貢献したい」と「地道にコツコツと働きたい」を二者択一で尋ねたところ、「早く戦力になって会社に貢献したい」が５８.７％で、「地道にコツコツと働きたい」（４１.３％）を上回りました。「早く戦力になって会社に貢献したい」は、次第に増えてきています。

『働くことに対して強く求めるもの』（Ｐ.１７／問１０）では、「人間としての成長」が最も高く３８.０％。ただし、昨年から３.７ポイント減少しています。「人間としての成長」に「収入の確保」が２１.７％で次いでいますが、これは逆に昨年から３.６ポイント増加しました。

『将来のキャリアプラン』については（Ｐ.１８／問１１)、「漠然とは考えている」が最も多く６２.９％でした。「明確なキャリアプランを持っている」のは８.０％で、昨年と同率で過去最低です。キャリアプランについて「今は考えていない」が２８.５％となり、２００９年度（２９.５％）に続き２番目に高い値となっています。経年でみると、経済状況の先行き不安もあるためか、将来のキャリアの見通しが少しずつあいまいになってきている印象もあります。

『将来の進路としてどのような方向を望むか』(Ｐ.１９／問１２)では、「管理職として部下を動かし、部門の業績向上の指揮を執る」という“管理職志向”が昨年と同率で過去最高の４８.１％となり、最も高い結果でした。“専門職志向”の「役職には就かず、担当業務のエキスパートとして成果を上げる」（４１.７％）は過去最低です。

男女で分けてみても、男性・女性ともに“管理職志向”の強まりを見ることができます。“管理職志向”の割合を１０年前の２００２年度と比較すると、男性は２７.３％から５６.８％、女性は１３.１％から２８.７％と、いずれも２倍以上増えています。とくに、今年度の女性新入社員の“管理職志向”は過去最高で、およそ３割に達しています。

『転職から受けるイメージ』（Ｐ.２０／問１３）は、７０.４％が「キャリアアップ」ととらえていますが、男女別にみると、男性６６.８％、女性７８.５％とおよそ１２㌽の開きがあります。女性の方が転職に肯定的なイメージを持っているようです。

『最終的に目標とする役職・地位』（Ｐ.２１／問１４）では、例年同様に「地位には関心がない」が最も高い結果ですが、これを除くと「部長クラス」が２２.９％で一番多く過去最高となりました。これに「役員」（１９.６％）、「社長」（１４.３％）が続いています。

昨年と比較すると、「社長」、「役員」ともに３.１㌽ずつ減少している一方、「部長」は３.８㌽増えています。「部長」は初めて２割を超えた結果となり、トップに立つという大きな夢を抱くよりも、現実をしっかりと見据えているような新入社員の最終目標です。

人事処遇制度

少子化対策　「育休」「フレックス」が下がる一方、「扶養手当」「託児施設」が上がる
退職せず“定年なしにいつまでも働きたい”過去最低

『今後、自分の給料はどうなっていくと思うか』（Ｐ.２２／問１５）を尋ねた結果では、「下がることはないと思うが確実に上昇するとは限らない」が５５.７％で半数を超えており、将来に少なからず不安を抱く新入社員が多いようです。ただし、「下がる可能性も考えられる」が一昨年度の１９.９％からおよそ６ﾎﾟｲﾝﾄ減少して１３.５％にとどまっており、若干、不安は和らいでいるようです。

『仕事と育児の両立において、企業が講じる施策として最も有効だと思うもの』（Ｐ.２２／問１６）を尋ねると、「育児休業制度の充実」が２９.４％でトップです。経年で大きな傾向をみると、「十分な扶養手当の支給」と「社員専用保育施設の設置」が上昇傾向にあり、「育児休業制度」と「(フレックスタイム制など）勤務時間の自由度の高さ」は減少してきています。

『定年退職の年齢』（Ｐ.２３／問１７）については、「６５歳」が４８.７％でトップ。これに、「６０歳」が３１.９％で次いでいます。一方で、「定年なし（働きたければいつまでも)」は１５.７％で過去最低、２００６年度の３２.３％から半減しています。

『年功序列と成果主義のどちらを望むか』（Ｐ.２３／問１８）を二者択一で尋ねた結果、「成果主義」が６１.５％、「年功序列」が３８.５％となり、昨年度から１.２ポイント「年功序列」にシフトしました。

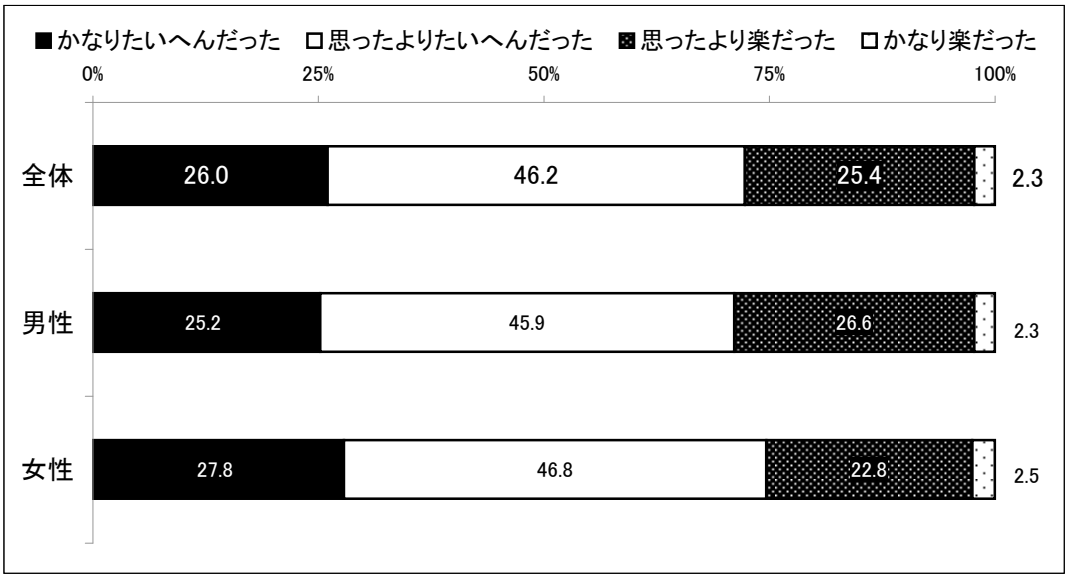
『終身雇用制度を望むか』（Ｐ.２４／問１９）どうかについては、「望む」が６７.５％で、過去最高だった昨年の７４.５％から７ﾎﾟｲﾝﾄ減少しました。２００９年度から３年続いていた７０％のラインを割り込みましたが、依然として高いレベルにあります。

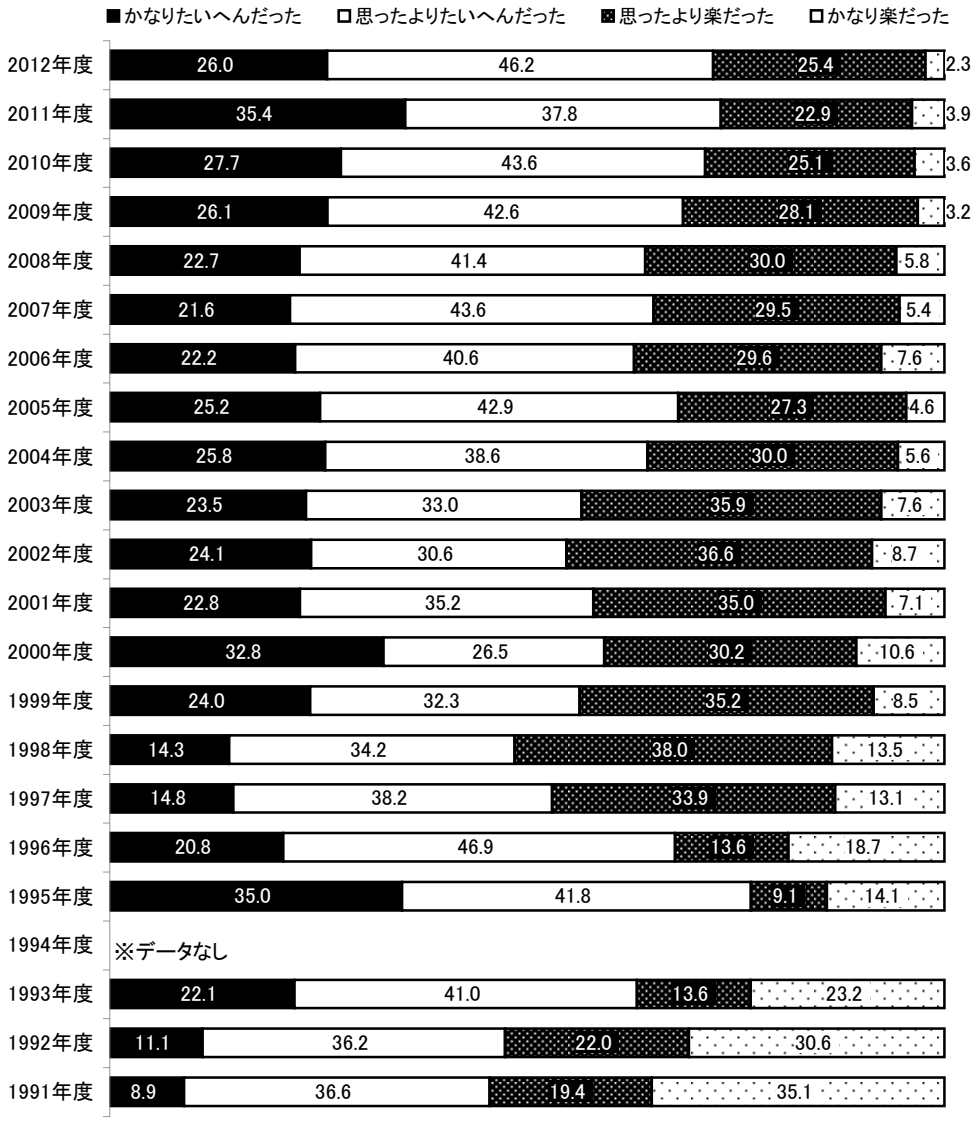
２０１２年度　新入社員の会社生活調査

デ ー タ 集

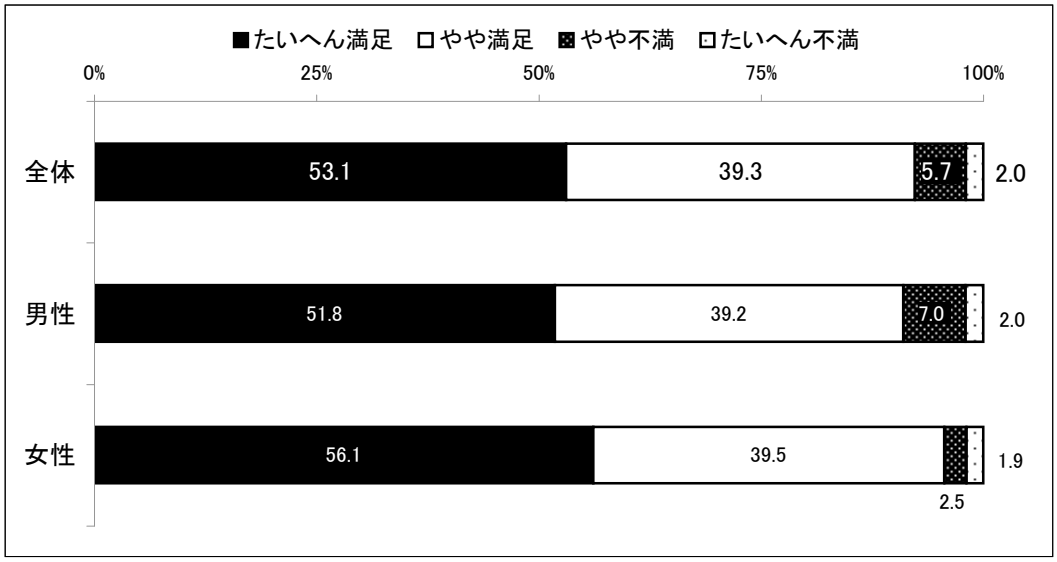
【就職活動】

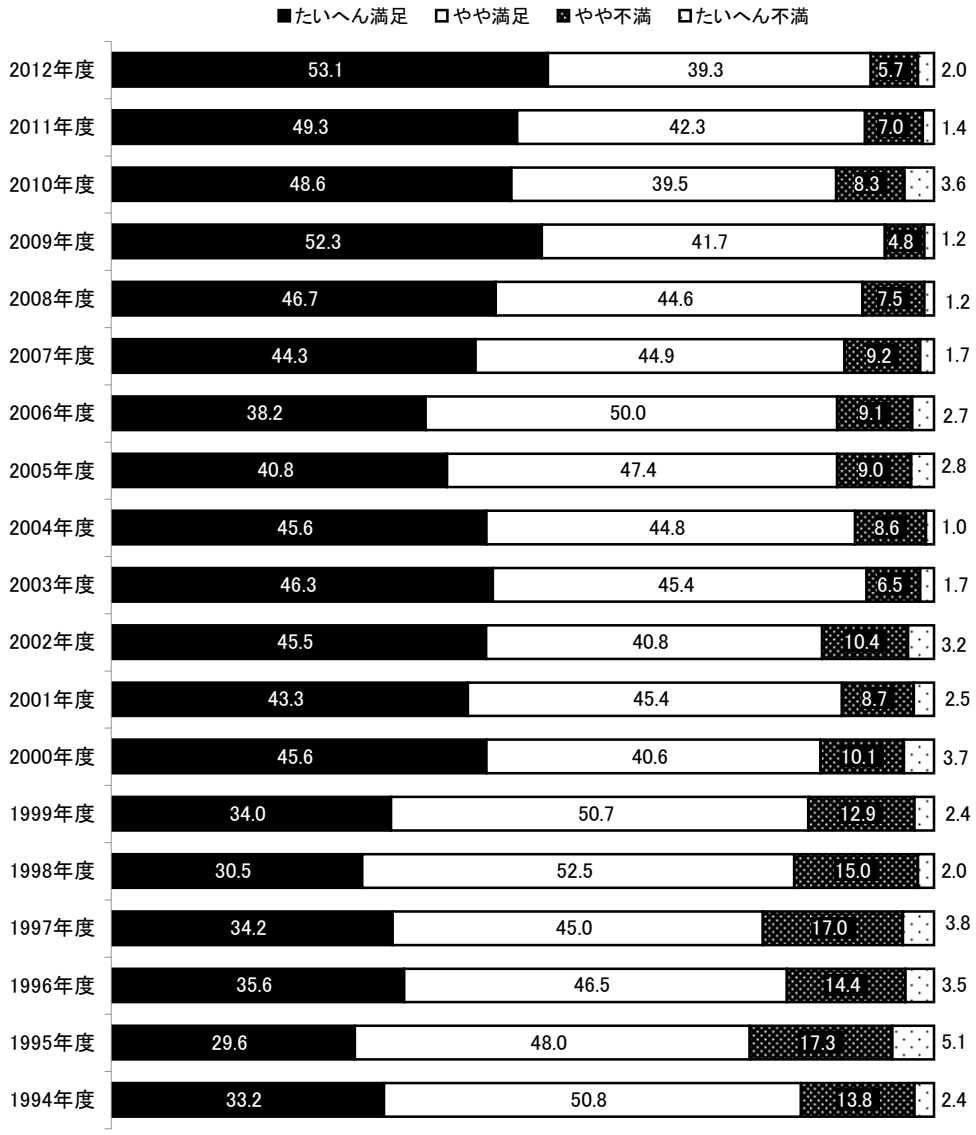
問１．ご自身の就職活動を振り返って、どのように感じましたか？(n＝511)



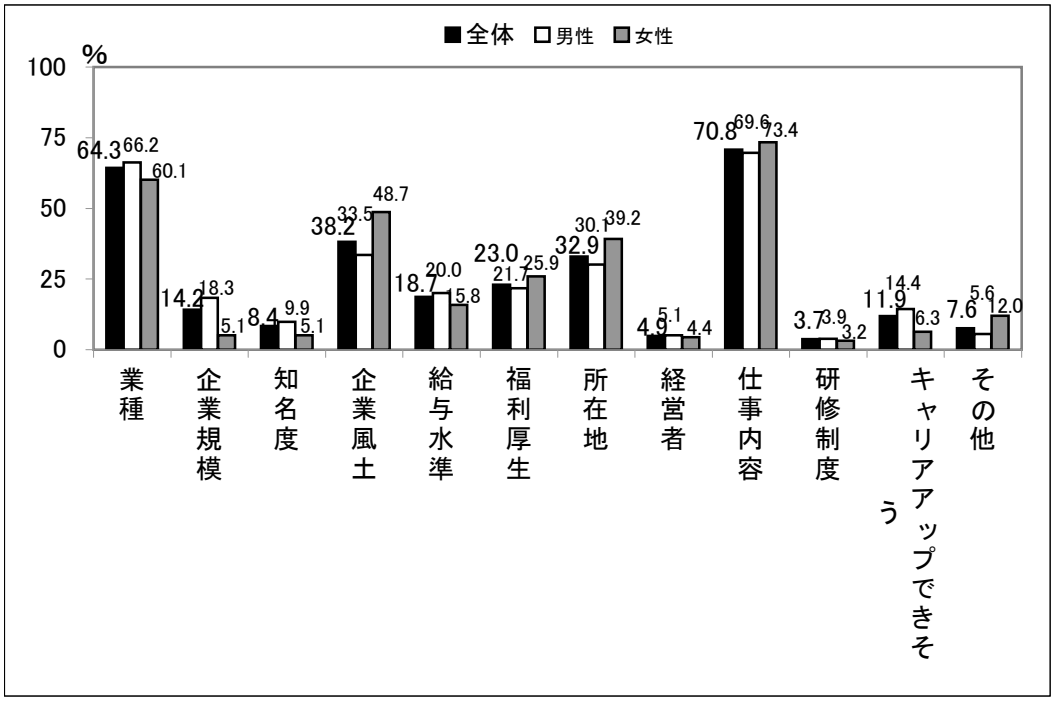


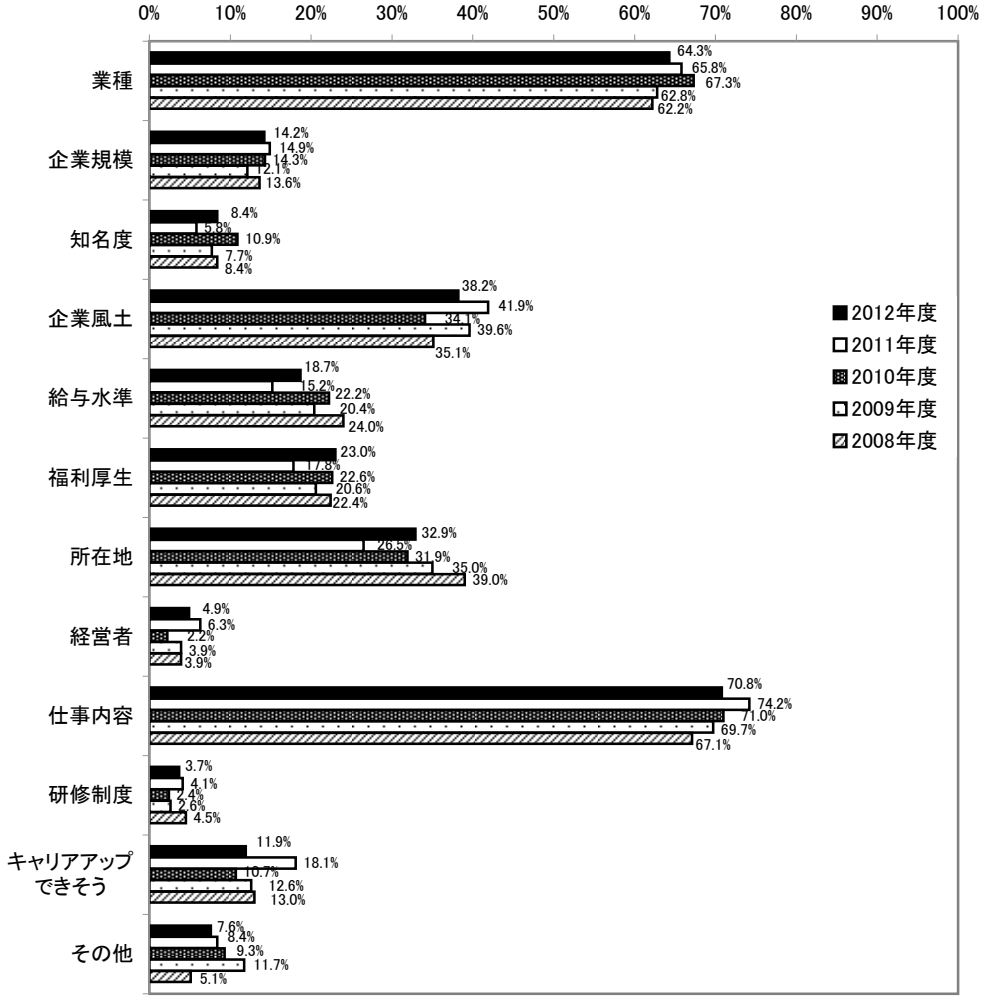
問２．就職活動の結果に満足していますか？(n＝512)



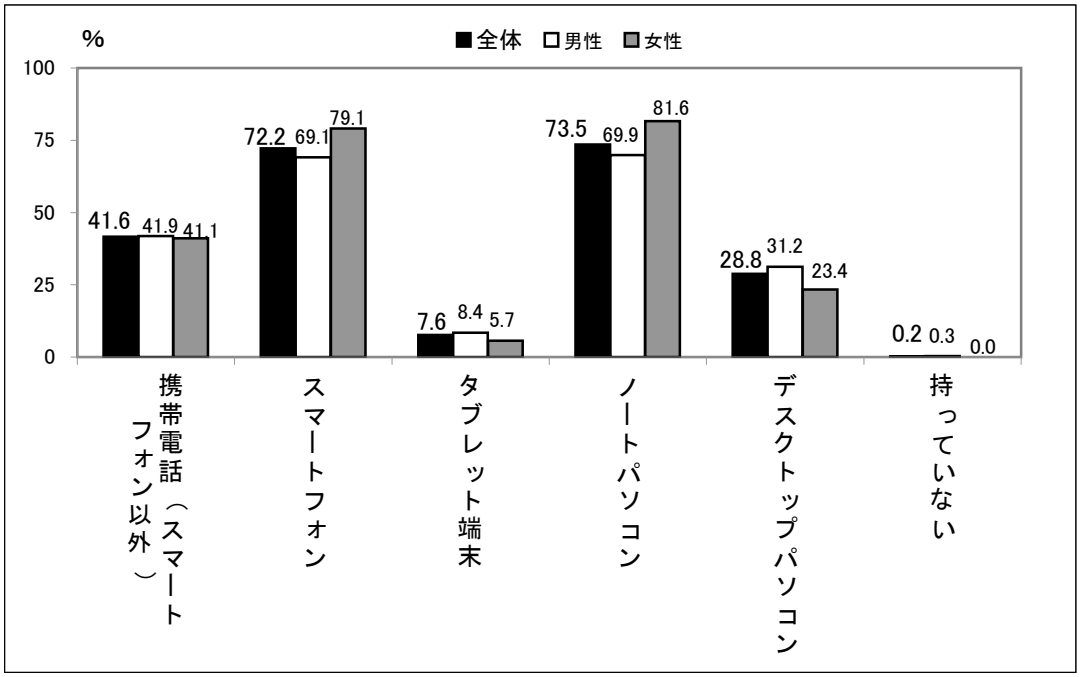


問３．就職先を選ぶ際に重視した項目はどれですか？（必ず３つ選んでください）（n＝513）

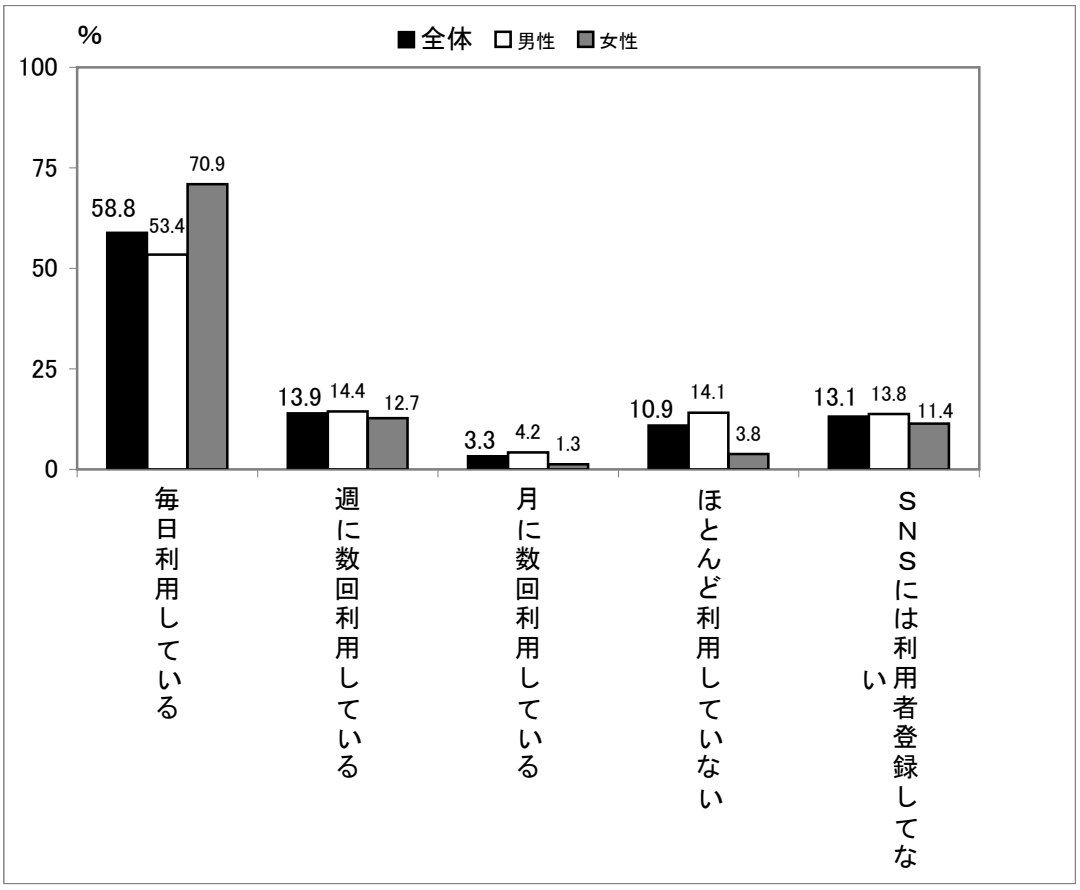




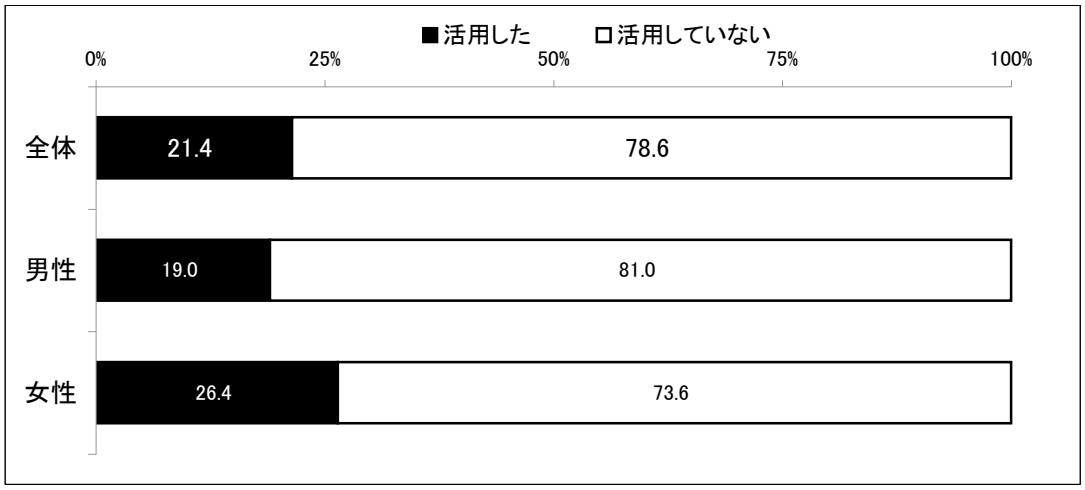
問４．あなたが所有している情報通信機器をすべて選んでください。(n＝514)



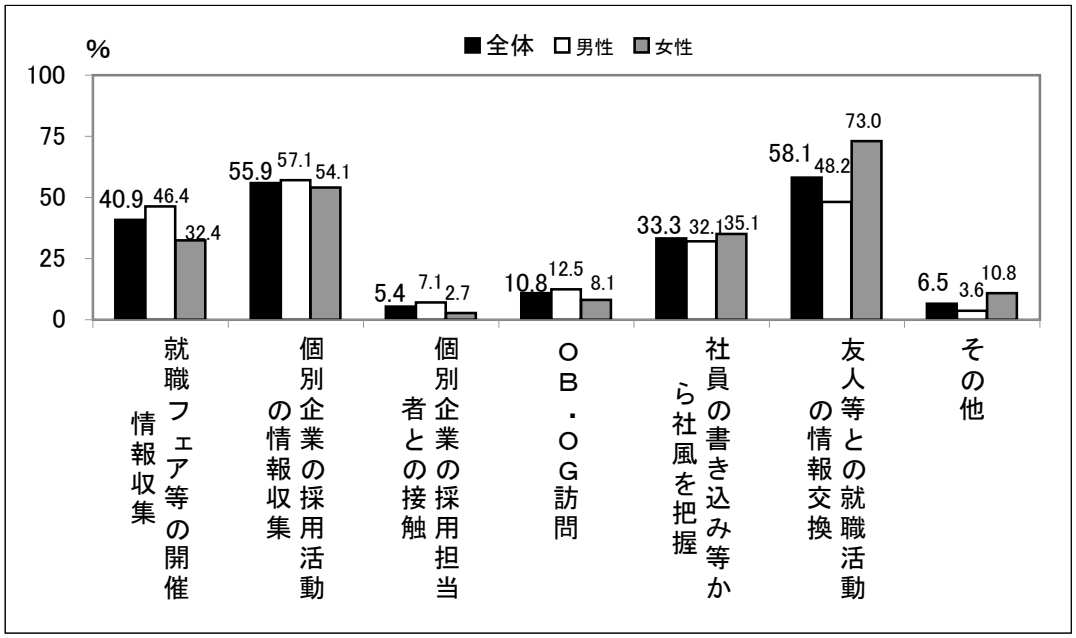
問５．ｍｉｘｉ、フェイスブック、ツイッターなどのソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)は利用していますか？(n＝512)



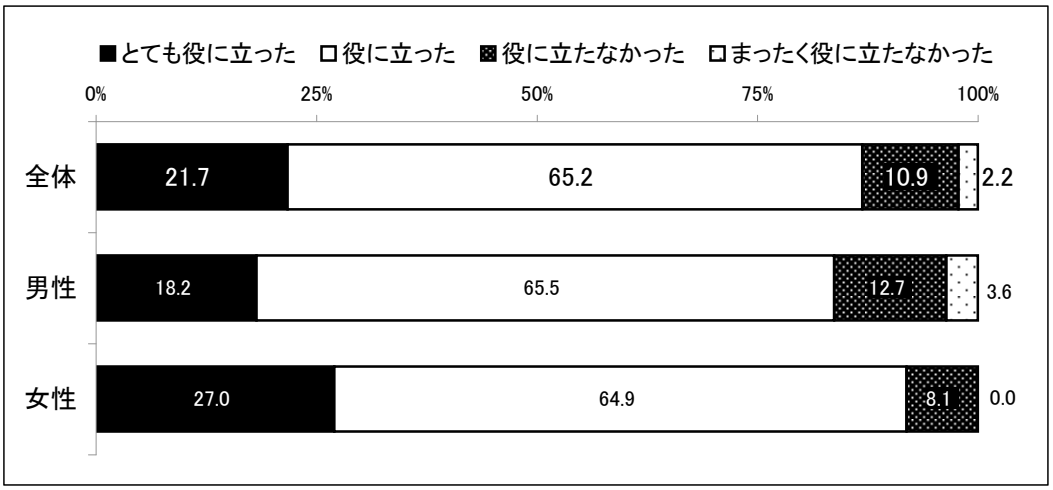
問６．（ＳＮＳに利用登録している方のみ）就職活動でＳＮＳを活用しましたか？(n＝435)



問７．（就職活動でＳＮＳを活用した方のみ）どのように活用しましたか？(複数回答)　(n＝93)

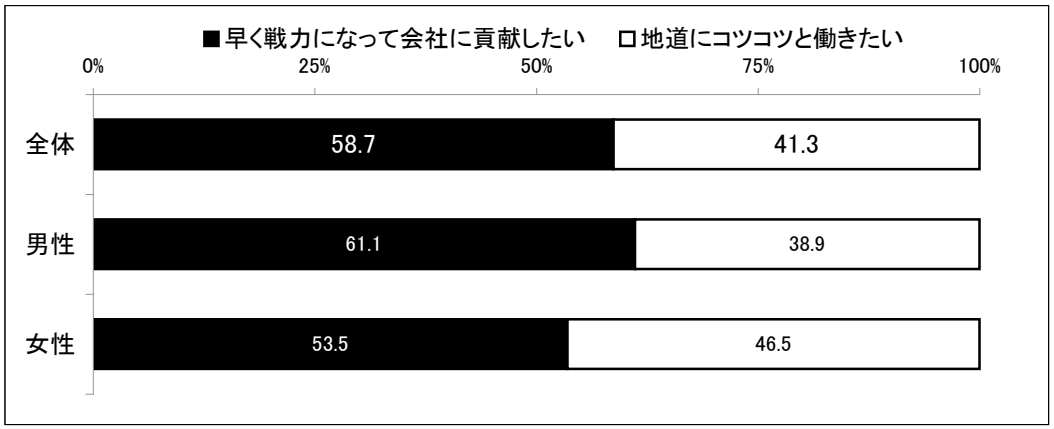


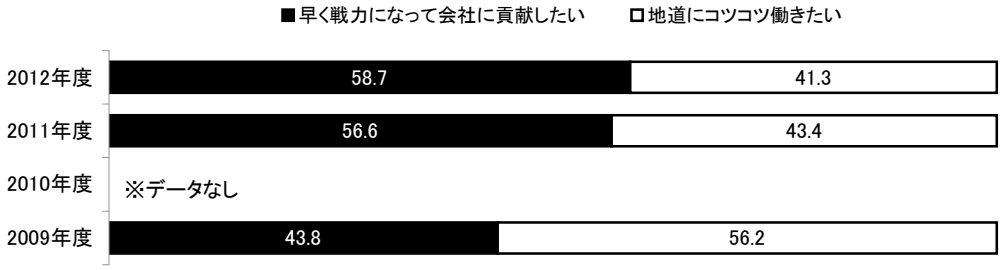
問８．(就職活動でSNSを活用した方のみ)就職活動でＳＮＳは役に立ったと思いますか？(n＝93)



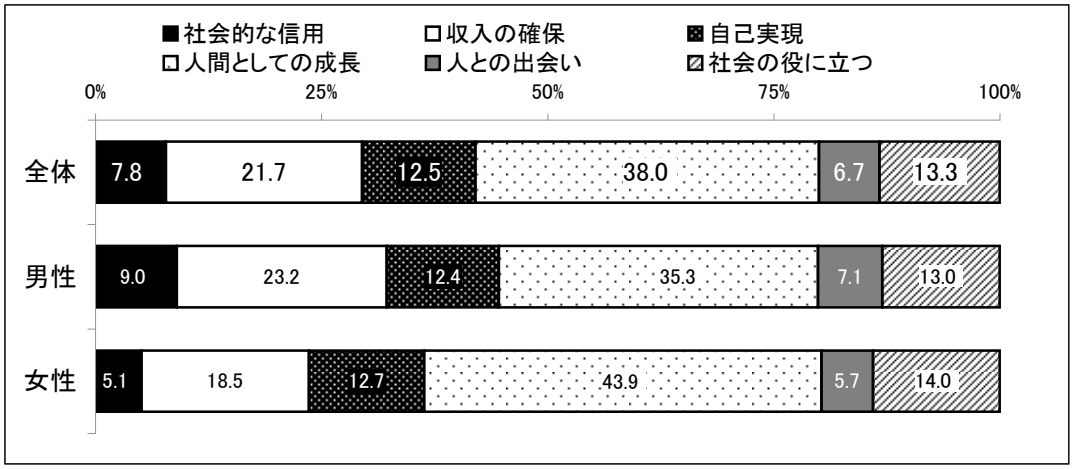
【キャリア】

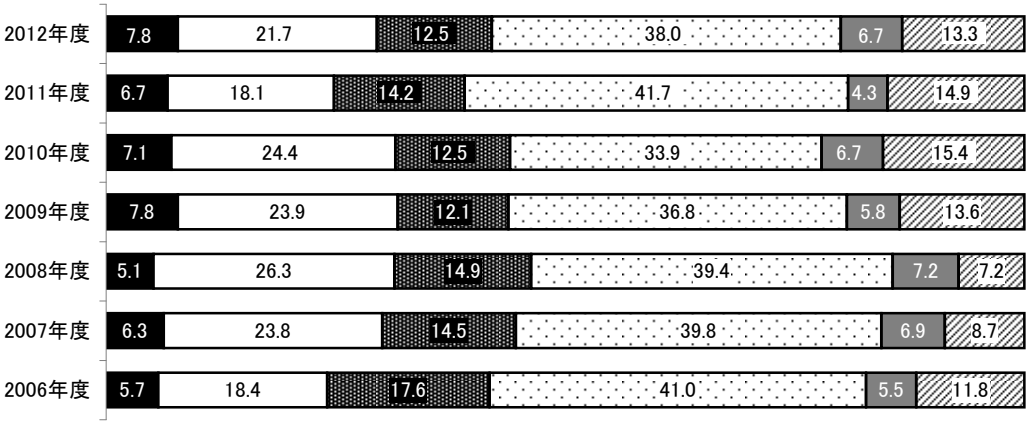
問９．これから働く上で、意気込みとして今の気持ちに近いのは以下のどちらですか？(n＝509)



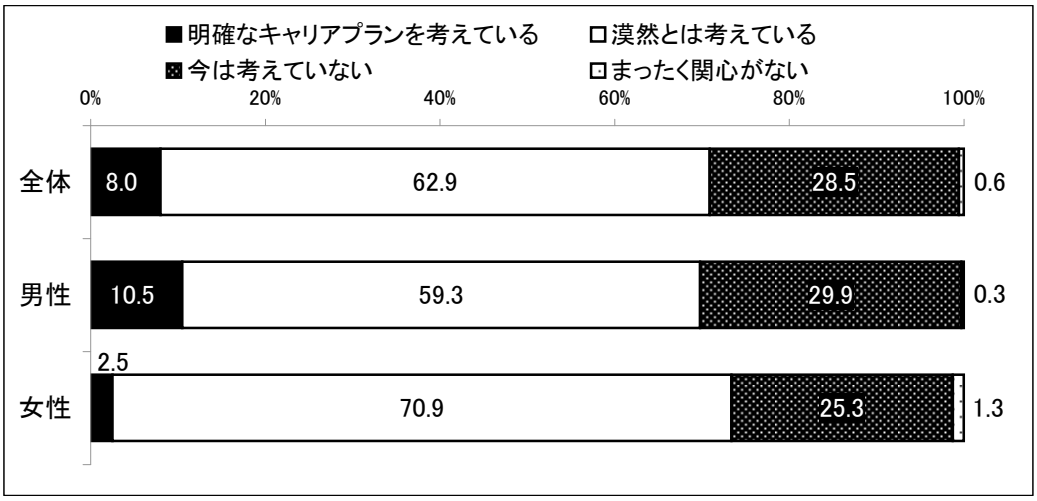


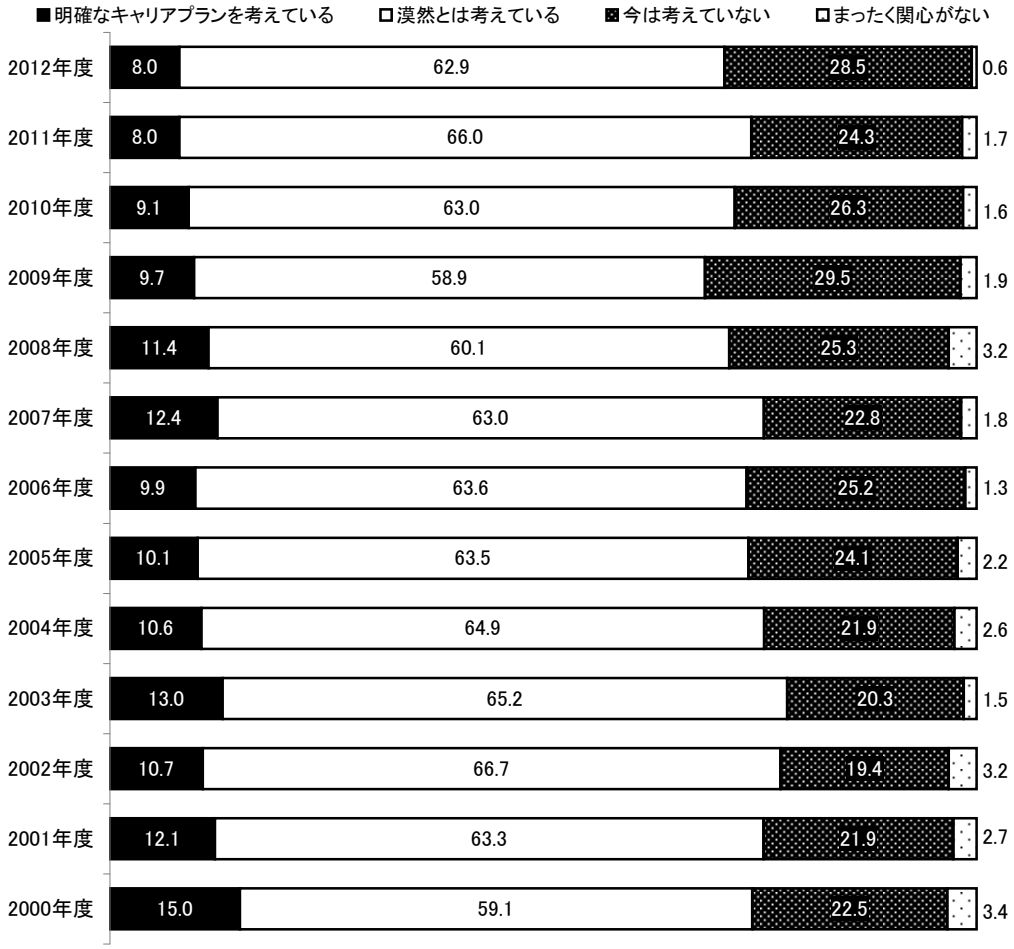
問１０．あなたが“働く”ことに対して強く求めるものはどれですか？(n＝511)



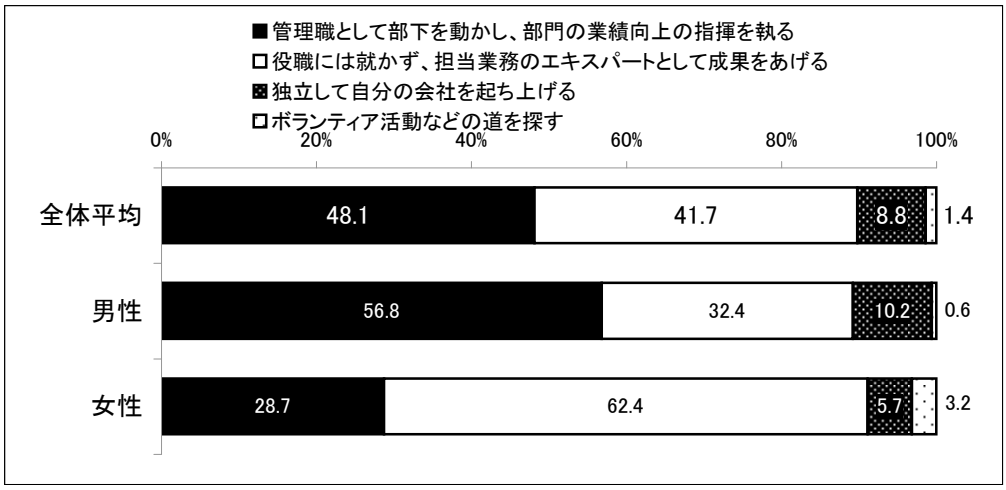


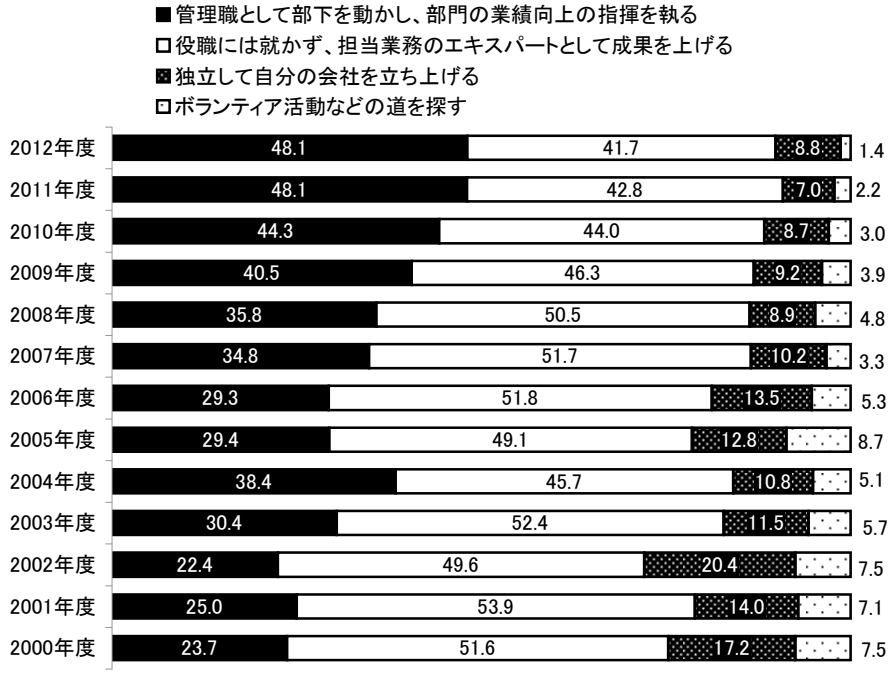
問１１．あなたは将来のキャリアプランについて考えていますか？(n=512)



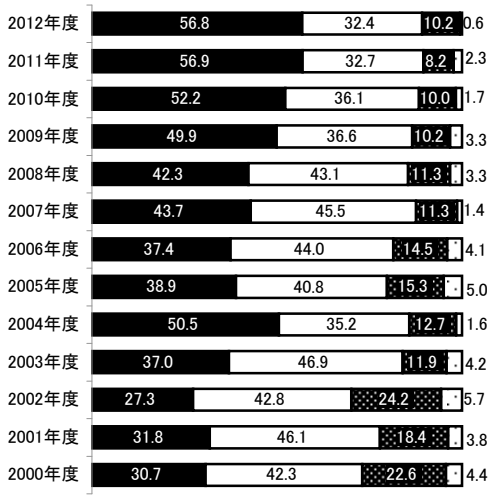


問１２．将来の進路としてどのような方向を望みますか？(n＝509)

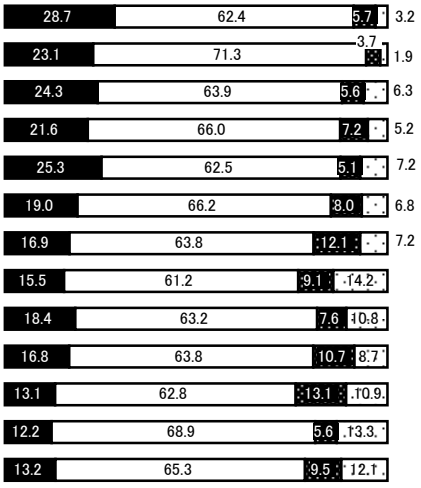




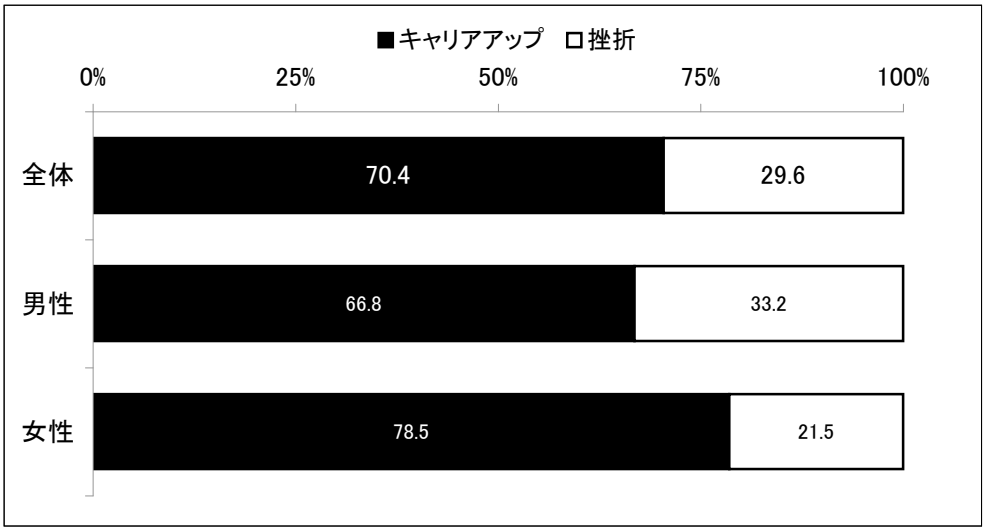
■男性

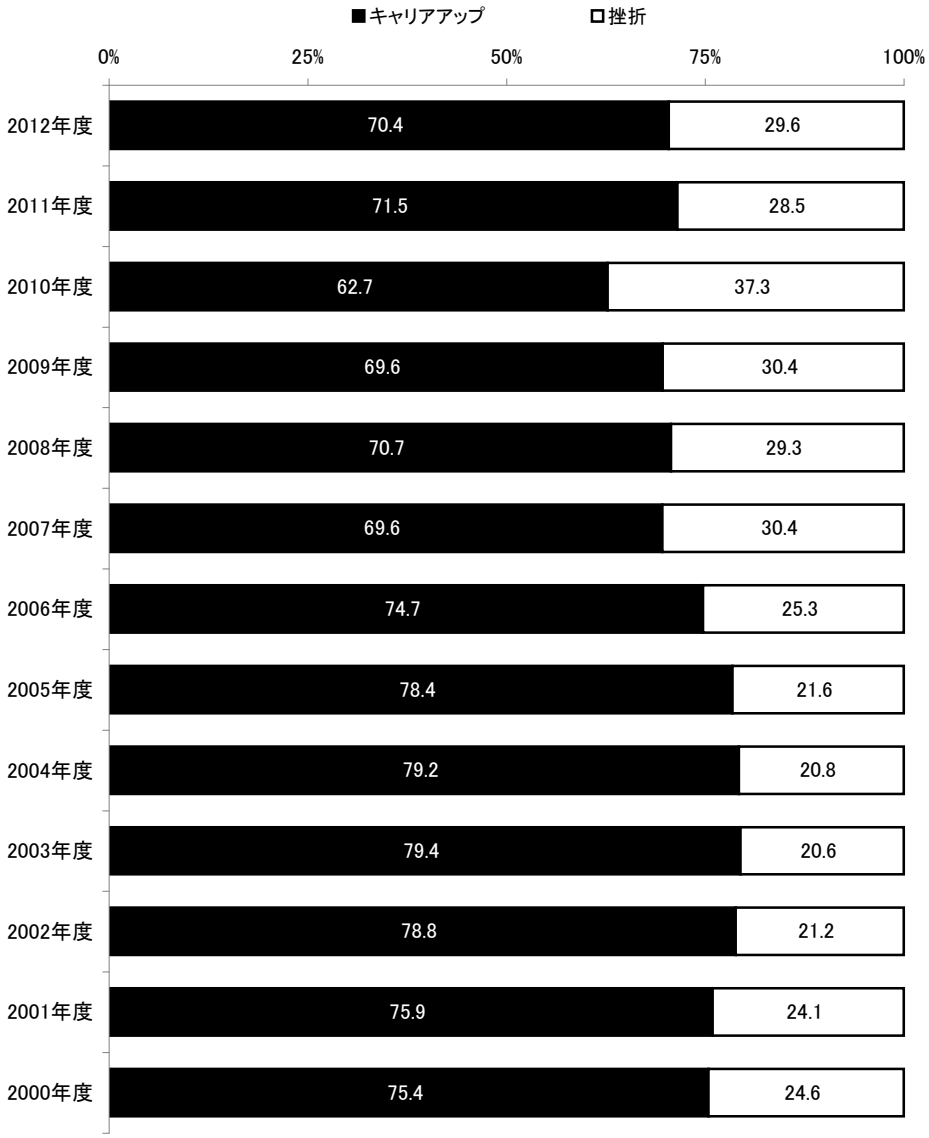


■女性

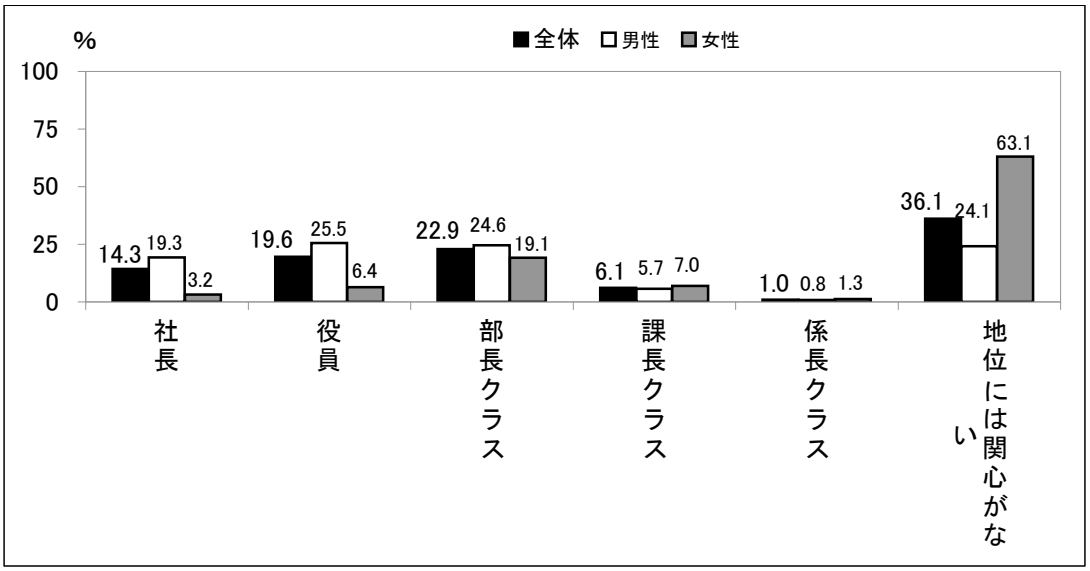


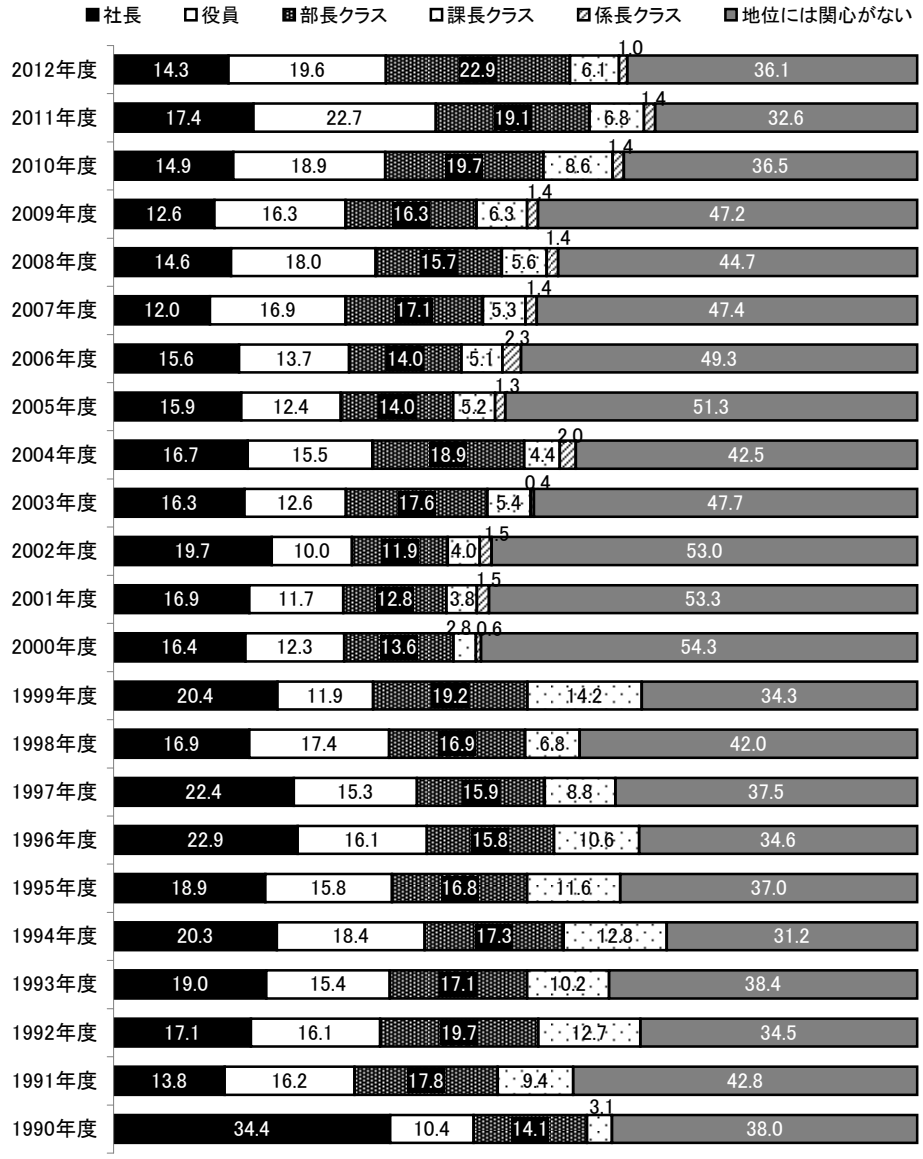
問１３．転職から受けるイメージとしてより強く感じるのはどちらですか？(n＝510)





問１４．あなたが最終的に目標とする役職・地位は？(n＝510)

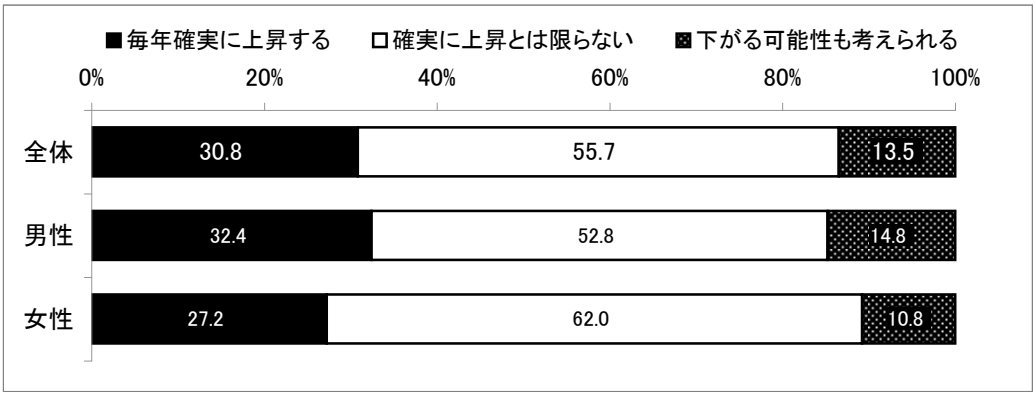


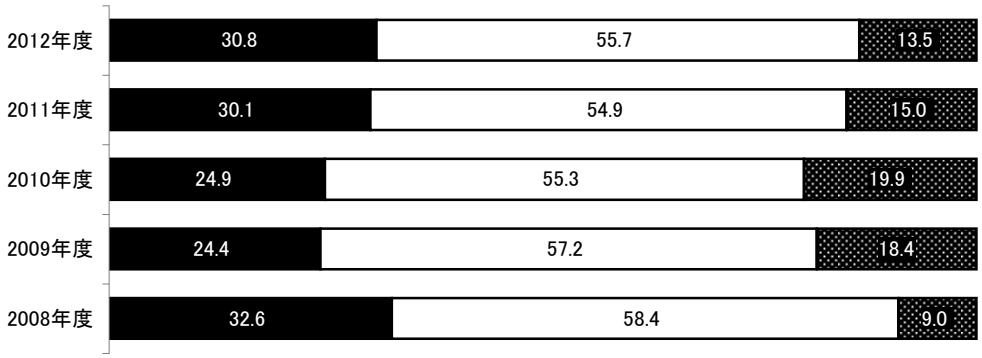


※2000年度から「係長」の選択肢を追加

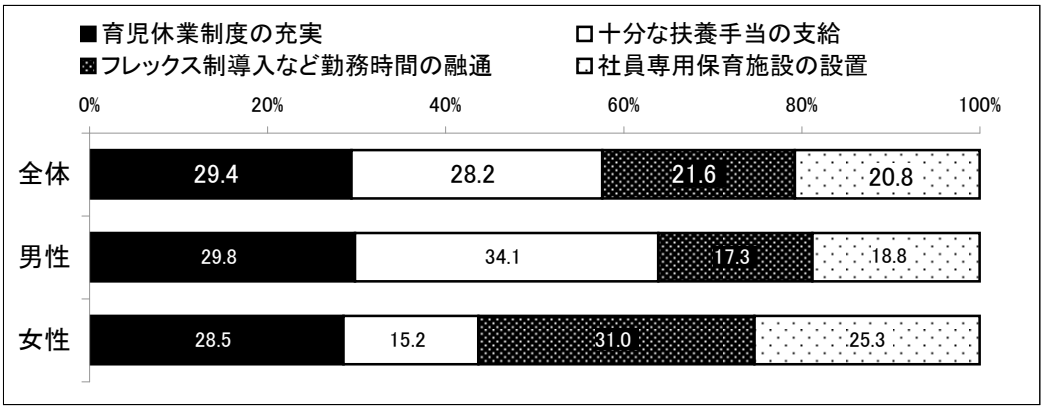
【待遇・雇用制度】

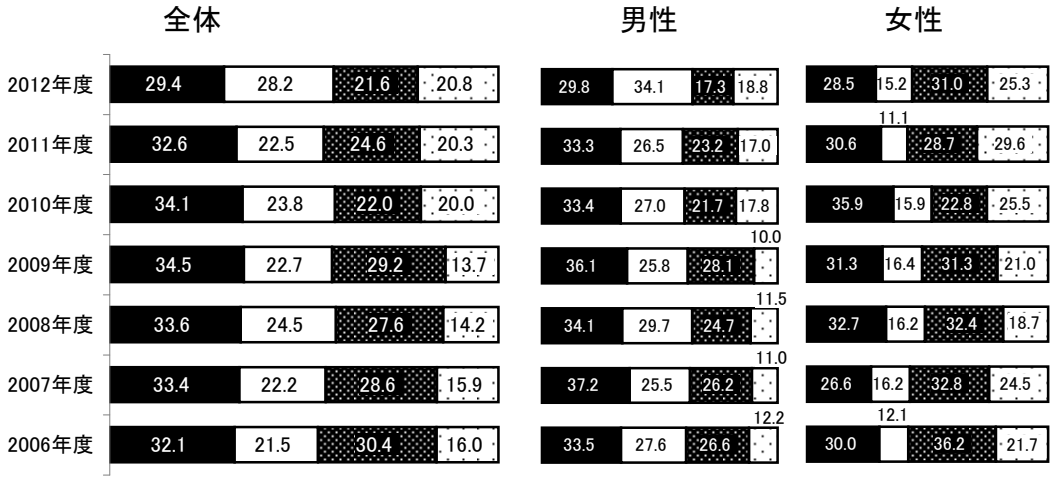
問１５．今後、自分の給料はどっうなっていくと思いますか？(n＝510)



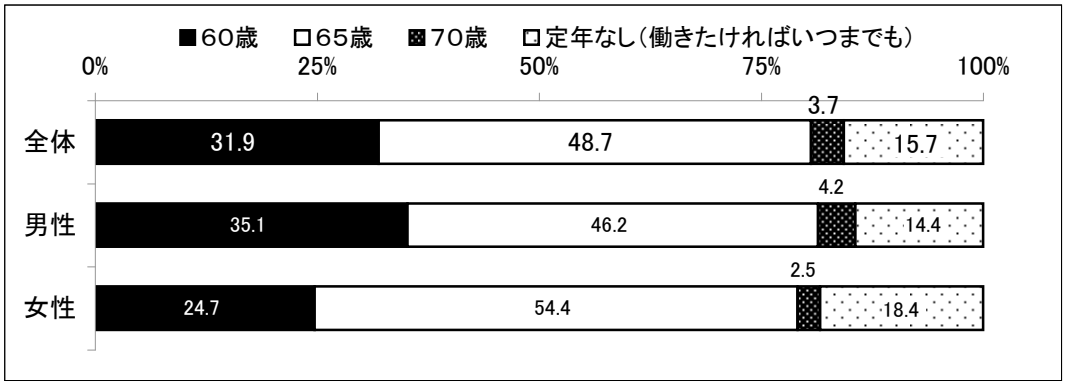


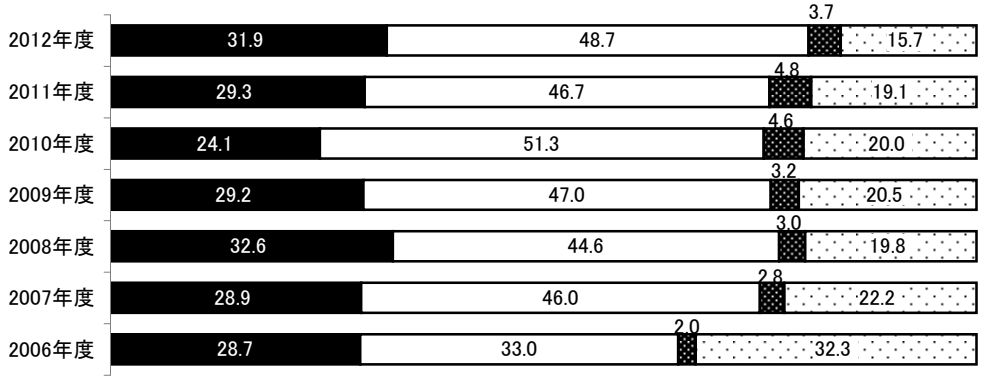
問１６．少子化が進む原因のひとつとして仕事と育児の両立の難しさが挙げられますが、その解決のために企業が講じる施策として最も有効だと思うものはどれですか？(n＝510)



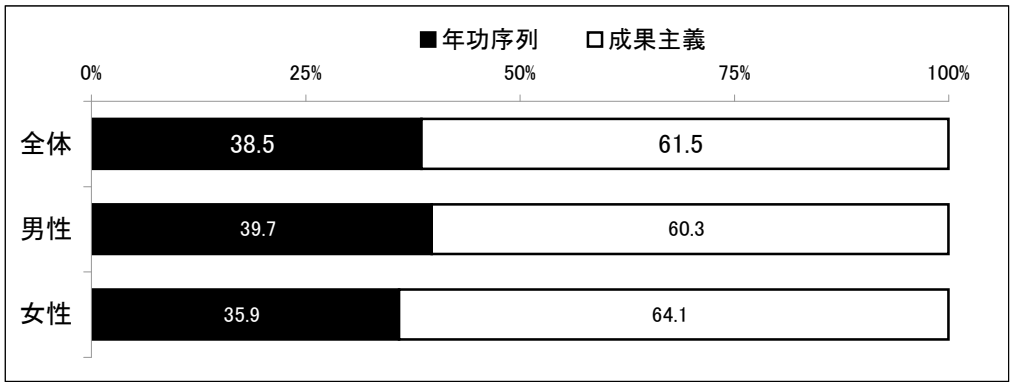


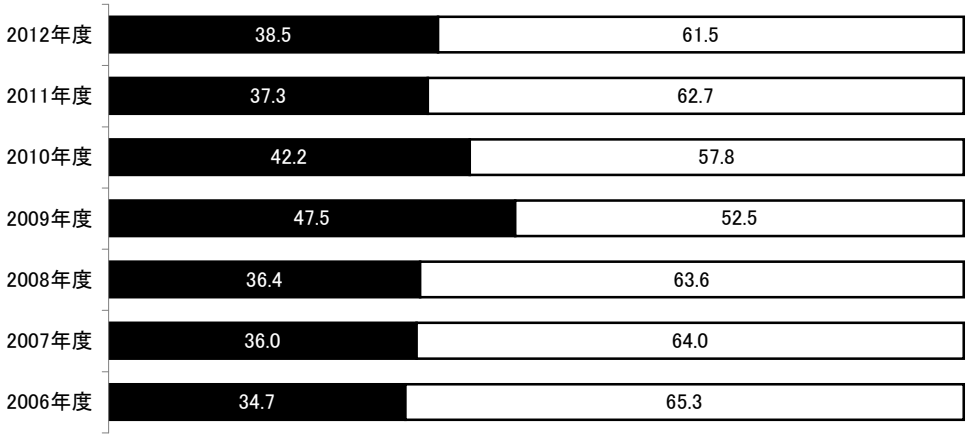
問１７．定年退職の年齢は何歳くらいがよいと思いますか？(n＝511)



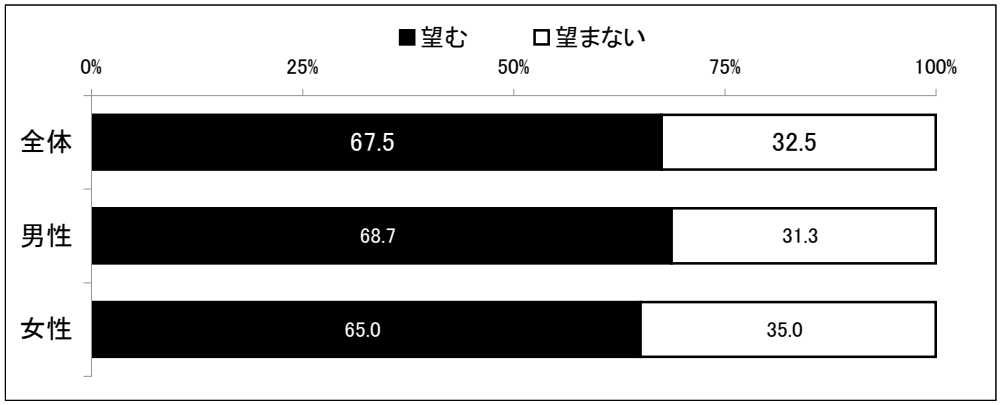


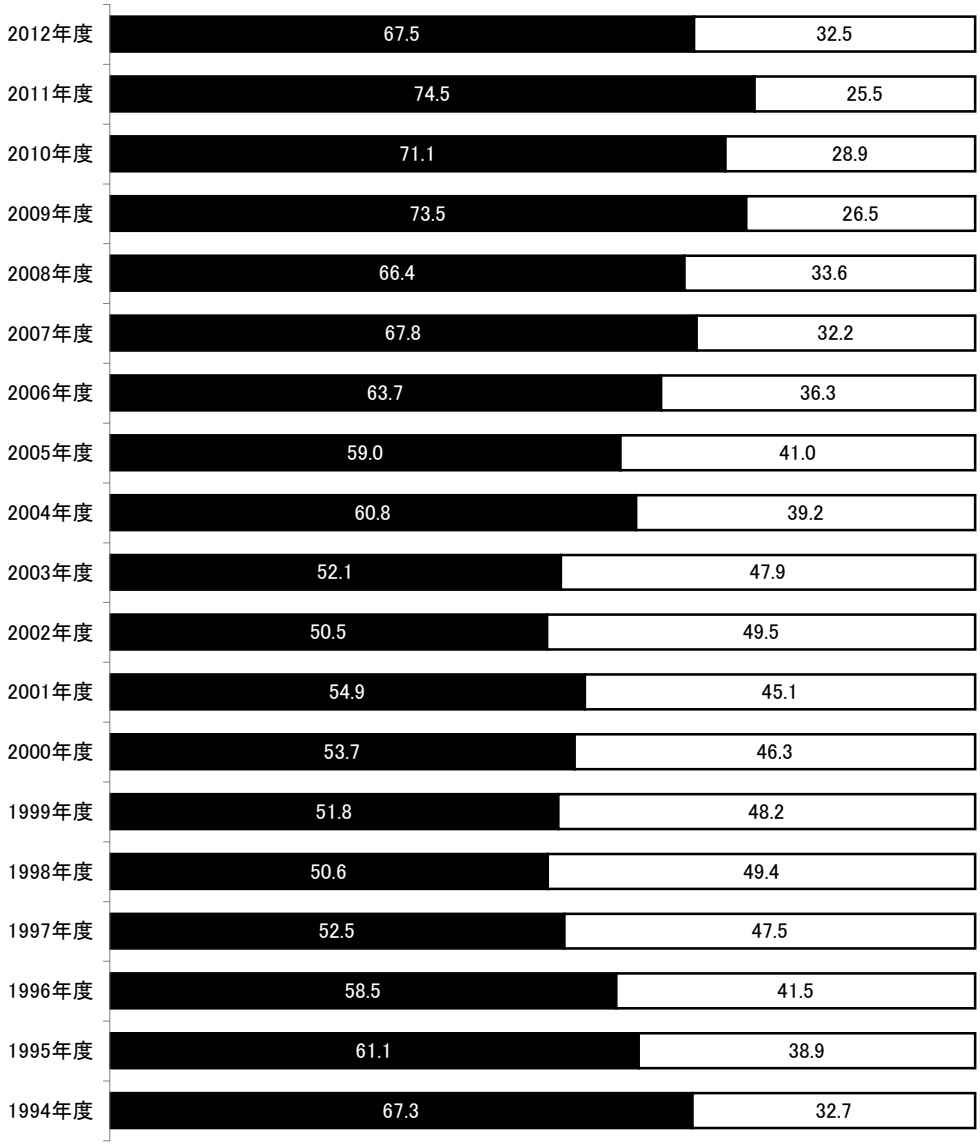
問１８．年齢や在籍年数に応じて昇進や待遇が決まる年功序列的な人事制度と、
業績に応じて決まる成果主義のどちらを望みますか？(n＝509)





問１９．“終身雇用制度”を望みますか？(n＝508)





お問い合わせ先
学校法人産業能率大学
企画広報部企画広報課
電話：03-3704-9040
ﾌｧｸｽ：03-3704-9404
〒158-8630　東京都世田谷区等々力6-39-15